

# 会社の経営努力要件適合性の認定について

配布資料

平成20年5月20日、機構において開催された委員会において、当社が経営努力要件適合性の認定を申請していた下記の3件に関して審議が行われ、当社の経営努力が認められた。

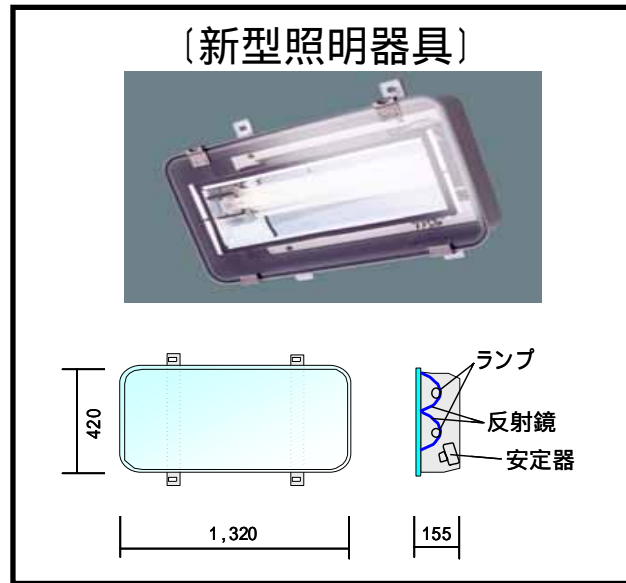
- トンネル照明設備における新型照明器具の開発
- 高炉スラグを下層路盤材に採用
- 資機材管理システムを活用した  
発生材(ガードレール)の更なる有効利用

# トンネル照明設備における新型照明器具の開発

〔従来のトンネル照明器具〕

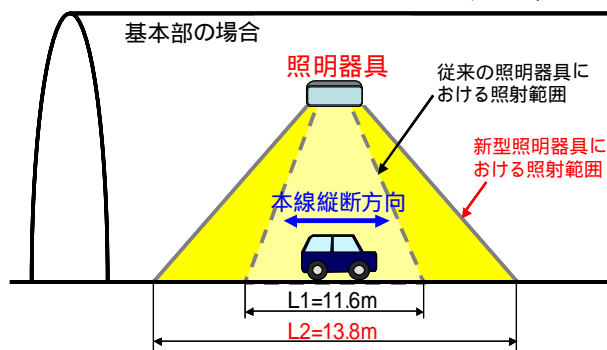


〔新型照明器具〕



- ・器具効率の向上  
⇒ 前面鋼製枠を廃止し、全面をガラス面にしたことによる照射面積の拡大
- ・器具単価の低減  
⇒ 前面鋼製枠を廃止したことによる構成部品数の削減
- ・器具寿命の向上  
⇒ 前面鋼製枠等の鋼製部品の削減による腐食箇所の削減
- ・清掃効率の向上  
⇒ 器具前面の凸凹部をなくす

北関東自動車道 唐桶山トンネル(L=1,070m)の例



本線縦断方向における照射範囲が19% 拡大

トンネル断面及び路面・壁面の反射係数等によりこの値は変化する

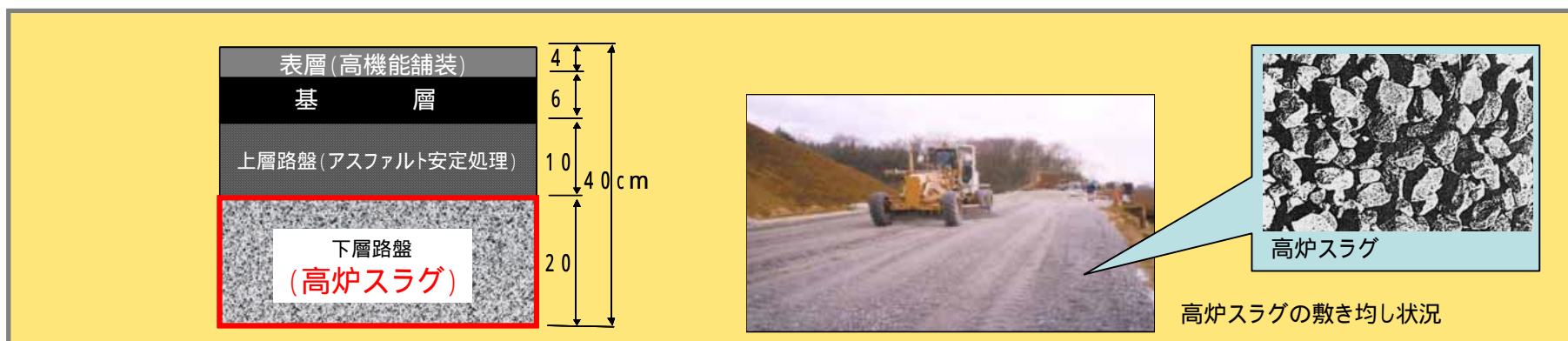
項目	従来型照明	新型照明	削減数量
器具数量			
基本部 (@11.6m @13.8m)	365 灯	304 灯	61 灯
入口緩和部	389 灯	328 灯	61 灯
合計	754 灯	632 灯	122 灯

設置器具数が削減

- 従来のトンネル照明器具に対して
- ・照明率の効率化による照明器具数の削減
- ・器具単価の低減
- 上記のコスト縮減以外のメリット
- ・器具寿命及び清掃効率の向上
- 維持管理費の低減

# 高炉スラグを下層路盤材に採用

現場周辺において路盤材として使用可能でかつ安価な材料について調査  
 大量の高炉スラグの安定供給に向けた製鐵所との協議による事業調整  
 懸念される課題に対する技術的検討



高炉スラグを下層路盤材として採用することによる材料費及び施工費の縮減

上記のコスト縮減以外のメリット

- ・セメント安定処理路盤工に必要な養生期間は不要 → 工期の短縮
- ・再生資源の有効利用 → 循環型社会の形成に貢献
- ・クラッシュラン砕石の生産に伴う地山掘削が不要 → 環境負荷の低減

# 資機材管理システムを活用した発生材(ガードレール)の更なる有効利用

## 資機材管理システムの構築

- ・防護柵の仕様の変更
- ・鋼製防護柵からコンクリート製防護柵に変更

など

発生したガードレールを保管

発生材の保有状況を一元的に管理



(資機材管理システムの画面の例)

各事務所における資機材の発生・保管状況を  
リアルタイムで把握

当初計画における発生材の有効利用の総数量に加え、  
更に有効利用可能な発生材の数量を確認

更なる発生材の効率的な有効利用が可能

資機材管理システムを活用し、更なる発生材(ガードレール)の有効利用を図る

# (参考) 道路事業における会社のインセンティブを確保する仕組み

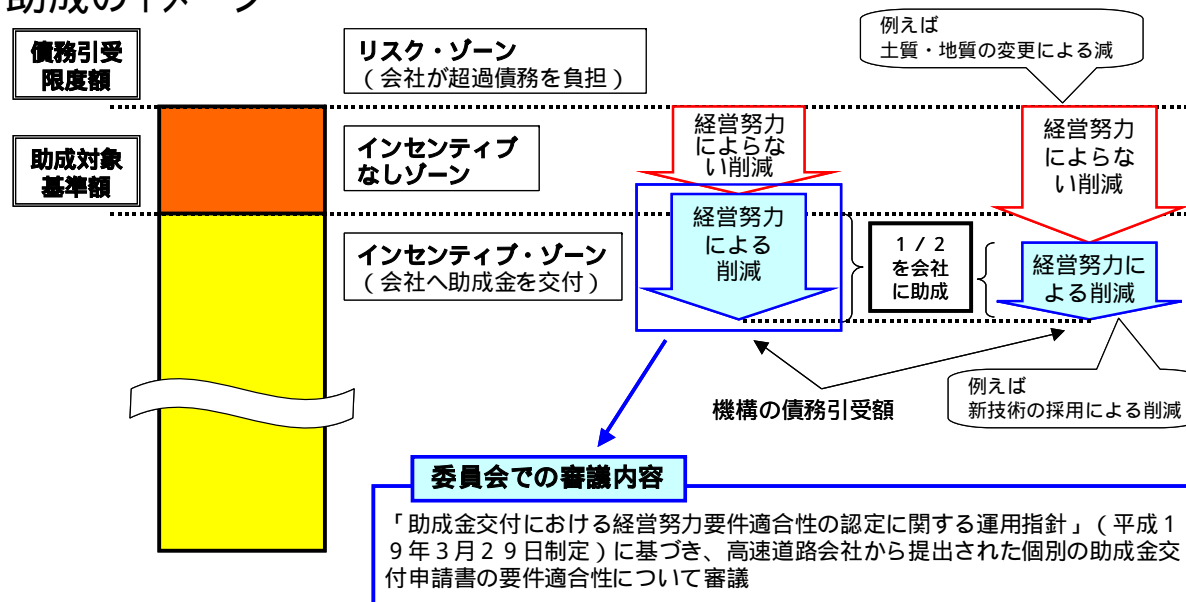
会社が、経営努力により高速道路の新設、改築などに関する工事に要する費用を縮減した場合は、機構に対し助成金の交付を申請することができる(協定第13条に規定)

## 助成の仕組み

### (1) 助成の基本的考え方

会社への助成は、助成対象基準額を下回った額のうち、会社の経営努力による削減と認められる部分の1/2とする(協定第13条第4項に規定)

### (2) 助成のイメージ



透明性・客観性の確保のため、  
機構において学識経験者からなる  
委員会を設置